

2022年12月25日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第65巻第37号(通算3319号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

かみさま **神様がすべてのひとと共におられる**  
ことを証ししていく **教会**

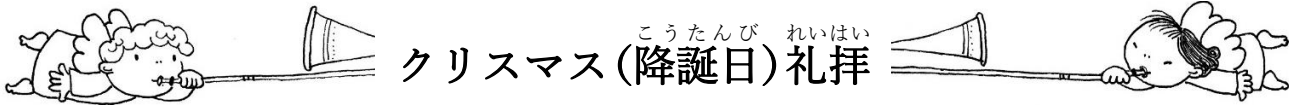


ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人がみな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)



《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

招きの詞 イザヤ書 55章 10-11節

賛美歌 21-260番「いざ歌え、いざ祝え」(©教団讚美歌委員会)

クランツ点灯のことば 点灯者

交禱と賛美歌『讚美歌21』267番「ああベツレヘムよ」(©著作権消滅)

賛美歌 21-254番「小鳥も飛び去る冬のさなか」(©教団讚美歌改訂委)

聖書 創世記 1章 1-5節

ヨハネによる福音書 1章 1-9節

メッセージ「クリスマス・プレゼントは誰に」 水谷 憲 牧師

賛美歌『新生讚美歌』180番「イエスがここに」(©日本バプテスト連盟)

聖餐 水谷 憲 牧師

共同の祈りと『讚美歌21』524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

主の祈り

誕生者祝福式(\*)と献げ物(\*\*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福 水谷 憲 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

報告 (9頁をご参照ください)

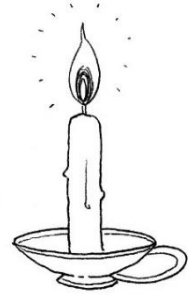
《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* みんなで12月生まれの方を祝福いたします。

\*\* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

招きの詞 イザヤ書 55章 10-11節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

- 10 雨や雪は、天から降れば天に戻ることなく  
必ず地を潤し、ものを生えさせ、芽を出させ  
種を蒔く者に種を、食べる者に糧を与える。
- 11 そのように、私の口から出る私の言葉も  
空しく私のもとに戻ることはない。  
必ず、私の望むことをなし  
私が託したことを成し遂げる。



クランツ点灯のことば

神様、イエス様のお誕生をお祝いするクリスマスの時を、ありがとうございます  
す。イエス様は暗闇の中に灯った光です。イエス様がなされたように、私たちも  
この光を分かち合い、灯し合う歩みができますように。イエス様がこの世に  
来られたことを、私たちが心から感謝してお祝いすることができますように。

聖書 創世記 1章 1-5節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1 初めに神は天と地を創造された。2 地は<sup>a</sup>混沌として、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3 神は言われた。「光あれ。」すると光があった。4 神は光を見て良しとされた。神は光と闇を分け、5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。<sup>b</sup> 第一の日である。

(脚注 a: 別訳「形なく、空しく」、b: 直訳「一日」)

聖書 ヨハネによる福音書 1章 1-9節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

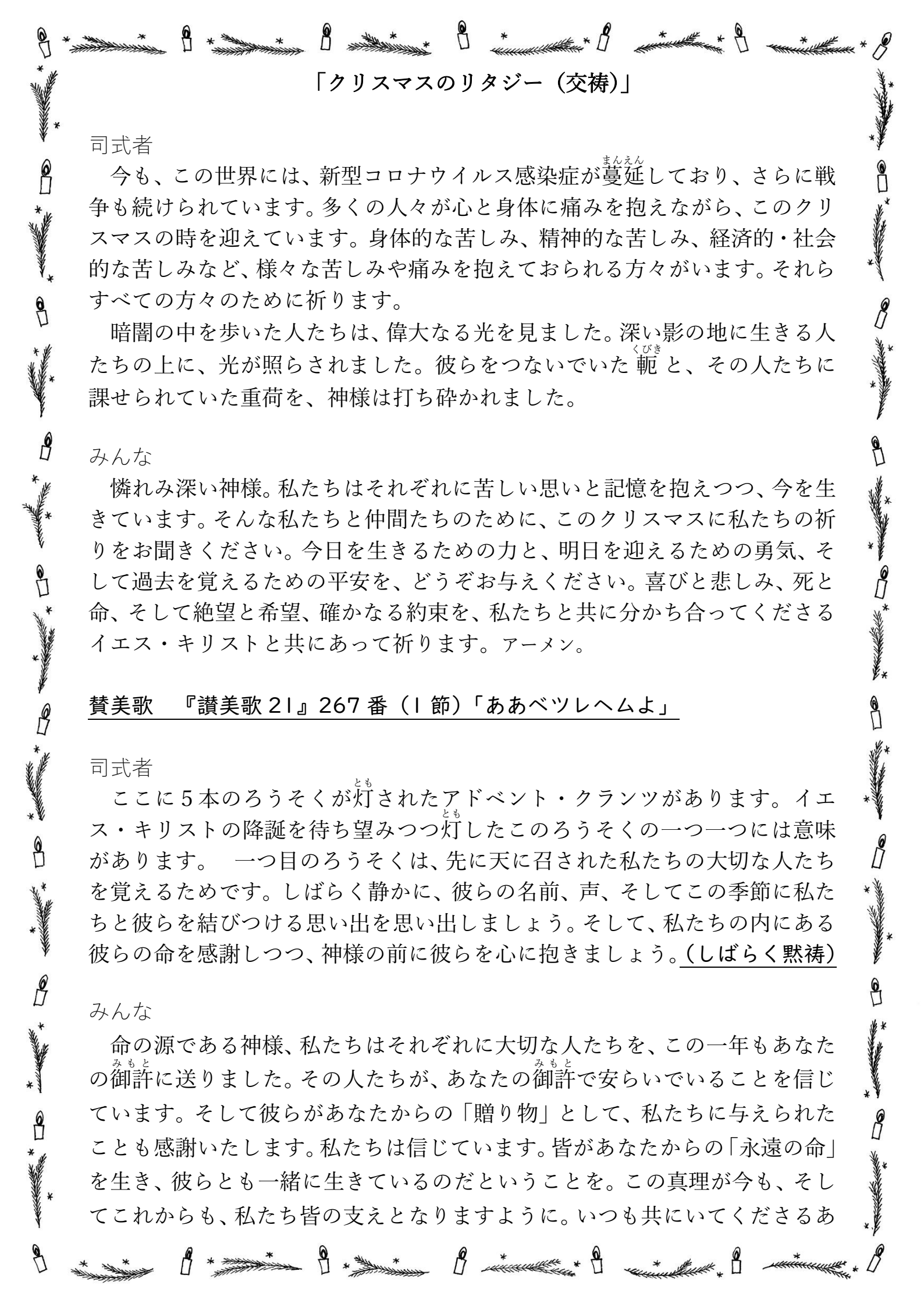
1 初めに言があった。言は神<sup>c</sup>と共にあった。言は神であった。2 この言は、初めに神と共にあった。3-4 万物は言によって成った。<sup>d</sup> 言によらずに成ったものは何一つなかった。<sup>e</sup> 言の内に成ったものは、命であった。この命は人の光であった。5 光は闇の中で輝いている。闇は<sup>f</sup> 光に勝たなかった。

6 一人の人が現れた。神から遣わされた者で、名をヨハネと言った。

7 この人は証しのために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じる者となるためである。8 彼は光ではなく、光について証しをするために来た。

9 まことの光があった。その光は世に来て、すべての人を照らすのである。

(脚注 c: 別訳「のもとに」、d: 異本では「成ったもので、言によらずに成ったものは」、e: 別訳「成ったものは、言の内にある命であった」、f: 直訳「光を捕らえなかった」、別訳「光を理解しなかった」)



## 「クリスマスのリタジー（交禱）」

司式者

今も、この世界には、新型コロナウイルス感染症が蔓延<sup>まんえん</sup>しており、さらに戦争も続けられています。多くの人々が心と身体に痛みを抱えながら、このクリスマスの時を迎えています。身体的な苦しみ、精神的な苦しみ、経済的・社会的な苦しみなど、様々な苦しみや痛みを抱えておられる方々があります。それらすべての方々のために祈ります。

暗闇の中を歩いた人たちは、偉大なる光を見ました。深い影の地に生きる人たちの上に、光が照らされました。彼らをつないでいた軛<sup>くびき</sup>と、その人たちに課せられていた重荷を、神様は打ち砕かれました。

みんな

憐れみ深い神様。私たちはそれぞれに苦しい思いと記憶を抱えつつ、今を生きています。そんな私たちと仲間たちのために、このクリスマスに私たちの祈りをお聞きください。今日を生きるための力と、明日を迎えるための勇気、そして過去を覚えるための平安を、どうぞお与えください。喜びと悲しみ、死と命、そして絶望と希望、確かなる約束を、私たちと共に分かち合ってください。イエス・キリストと共にあって祈ります。アーメン。

### 賛美歌 『讚美歌 21』 267 番（1 節）「ああベツレヘムよ」

司式者

ここに5本のろうそくが灯されたアドベント・クランツがあります。イエス・キリストの降誕を待ち望みつつ灯したこのろうそくの一つ一つには意味があります。一つ目のろうそくは、先に天に召された私たちの大切な人たちを覚えるためです。しばらく静かに、彼らの名前、声、そしてこの季節に私たちと彼らを結びつける思い出を思い出しましょう。そして、私たちの内にある彼らの命を感謝しつつ、神様の前に彼らを心に抱きましょう。（しばらく黙禱）

みんな

命の源である神様、私たちはそれぞれに大切な人たちを、この一年もあなたの御許<sup>みもと</sup>に送りました。その人たちが、あなたの御許<sup>みもと</sup>で安らいでいることを信じています。そして彼らがあなたからの「贈り物」として、私たちに与えられたことも感謝いたします。私たちは信じています。皆があなたからの「永遠の命」を生き、彼らとも一緒に生きているのだということを。この真理が今も、そしてこれからも、私たち皆の支えとなりますように。いつも共にいてくださるあ

あなたが、私たちの真の故郷<sup>ふるさと</sup>を、何度でも思い起こさせてください。また周囲の人々のうちに、出来事のうちに、また自然の美しさのうちに、あなたからの喜びを見出させてくださいますように。すべての悲しみをご存知である神様、悲しみと痛み<sup>うめ</sup>に呻くこの心を、どうか慰めてくださいますように。アーメン

### 賛美歌 『讚美歌 21』 267 番 (2 節) 「マリアを母とし」

司式者

二つ目のろうそくは、喪失の痛みに対するともし火です。自分や家族の健康の喪失、家族や友人との関係性の喪失、仕事とお金の喪失、ストレスによってもたらされた日々の生活からの喜びの喪失……。これら様々な痛みを集めて、神様に差し出します。神様、私たちに、心からの平安を与えてください。

みんな

神様、私たちは、あなたに信頼したいと願っています。しかし、すぐに心の中が恐れと不安でいっぱいになってしまいます。私たちが経験することすべてにおいて、あなたがいつも共にいてくださることを覚えさせてください。生かされている命の不思議を感謝し、あなたの守りと導きの約束をハッキリと心に刻んでくださいますように。アーメン

### 賛美歌 『讚美歌 21』 267 番 (3 節) 「人はみな眠り」

司式者

三つ目のろうそくは、人生における方向性や指針を失っている人たちのためです。出エジプトを導かれた神様は、古代イスラエルの民を、荒野<sup>こうや</sup>を通して、新しい地へと導かれました。今、私たちはこれから進むべき方向性を切実に求めています。今自分がどこにいて、これからどこに向かうべきなのかをお示してください。神様、あなたは力強くおっしゃいます。「恐れてはならない。私があなたの前に行く」と。

みんな

私たちの深みにおられる神様。どうか私たちを導き、私たちが正しい道の上にいることを教えてください。私たちの命を、あなたの御心<sup>みこころ</sup>に沿ってお用いください。私たちが失ったものをすべて、あなたの御許<sup>みもと</sup>に置いてください。アーメン

### 賛美歌 『讚美歌 21』 267 番 (4 節) 「ああベツレヘムの」

司式者

四つ目のろうそくは、希望のしるしです。クリスマスの物語が、私たちに指し示している希望のしるしです。私たちの命を分かち合ってくださいる神様が、すべての涙が拭われる時と場所を約束してくださっていることを覚えます。

みんな

神様、どうか私たちの沈んだ心を引き上げてください。道を見失っている時、どうか導いてください。日々の生活の中で、あなたから頂いている愛を見出せるようにしてください。そしてその愛を信頼できるように助けてください。それによって私たちもまた、隣の人を大切にすることができますように。すべての命を大切にされるイエス・キリストと共にあって祈ります。アーメン。

先導者

五つ目のろうそく、アドベント・クランツの中心にあるろうそくは、キリストのろうそくです。クリスマスの夜、社会の中からのけ者にされ、粗末な家畜小屋でお生まれになったイエス・キリストは、この暗い世界の中に灯った小さな光でした。小さくても確かな光が、暗闇の中には灯っています。

みんな

暗闇の中に輝いておられる神様。私たちは、この世界と私たち自身の中に、暗闇があることを知っています。クリスマスに家畜小屋の中でお生まれになったあなたは、社会の片隅を歩み、十字架へと追いやられつつ、光と慰め、平安と喜びを、この世界にもたらしてくださいました。私たちもまた幼子イエス様の光によって、この心がすべて闇に閉ざされてしまわないように、私たちの中にも確かな光を灯して下さい。そして私たちがこの世界で再び輝き、隣にいる人たちとこの小さな火を分かち合い、灯火を増やして行くことができるようにしてください。アーメン

司式者

このクリスマスの季節に、私たちに必要なすべての良いものが与えられるように、神様に祈り求めましょう。多くの痛み、様々な喪失、大きな不安と向き合っている私たちに、神様どうか応えてください。私たちの家族や仲間が、互いに寄り添い、助け、支え続けてくれますように。先に天に召された私たちの大切な人たちが、また私たちの生活の中のあらゆる喪失が、すべて、あなたの復活の約束によって全きものへと完成されますように。遠い昔、クリスマスの夜、羊飼いたちに、御使いによって告げられたように、世界の隅々にまで、あなたからの平安がありますように。全てを創られた愛と恵みの神様、このクリスマスに痛みや苦しみ、悲しみの中にあるすべての人たちに、あなたからの力を豊かに注いでくださいますように。アーメン。

《先週のメッセージより》 2022年12月18日 第4アドベント礼拝

メッセージ「インマヌエル 今、現れる」より

岡嶋千宙伝道師

聖書 イザヤ書 7章10-16節

「おとめが身ごもり男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」(7:14)。マタイ福音書の著者は、この言葉を、パレスチナの小都市ナザレに生まれたイエスという人物についての預言であると理解した。キリスト教会では当たり前とされている解釈。けれど、聖書は神の生ける言葉であり、一つの解釈、一つの理解、一つの捉え方に固定されるものではない。常に新しさに開かれていて、それに向き合うわたしたちは、新しい息吹を吹き込むことが求められている。

だから、こう考えてみよう。「おとめ」と訳された言葉。それは、一人一人の「わたし」であり、「あなた」である。そして、そのおとめが身ごもり産む「男の子」とは、閉塞感に満ち、個がないがしろにされる現代の世界で、必死に生きるわたしたち一人一人が、神によって約束された新しい世界をもたらすために紡ぎだす一つの果実である、と。「『おとめ』であるなら、男性は含まれないのでは？」と思うかもしれない。でも14節を含めた本日の箇所、および、イザヤ書の他の救い主預言の記事(例11:1-10)をヘブライ語原文まで遡ると、わたしたちにとっては「当たり前」とされる「男」と「女」の境界線が容易に越えられ、交差され、そして消されていることが分かる。

男か女かということだけではない。一人一人の「わたし」が、「あれかこれか」という思考パターンを変え、これまでの常識のもとで引かれていた分断線を捉え直していく。社会の当然、世の中の当たり前が作り出す線を引き直し、越え、消し去って、新しい世界へと通じる道を歩んでいく。福音書が伝えるイエスが歩んだのはまさしくその道。当時の社会の当然を疑い、当たり前を変え、常識から外れた存在とみなされて苦しみの中にある人々と共に生き、新しい世界を描き求め築いていった。そして、イエス自身が痛みを負い、最後には十字架での死を迎えた。そのイエスが招いている。難しいけれど、苦しいけれど、つらいけれど。それでも、一步を踏み出す。歩み続ける。問い続ける。これでいいのか。これまで、でいいのか。この境界線が当たり前なのか。当然や常識の背後で、消されている声や命があることを忘れず、その囁きと灯火を聴いて、見つめ続けていく。一人ではなくて、隣にいるあなたと。そして、あなたとわたしの間にいる、イエスと共に。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

YouTube



Facebook



LINE 公式アカウント





◎ 先週の報告 12月18日 第4アドベント礼拝

主日礼拝出席 大人4名 中継動画再生数 9回  
献金 大人4,000円 感謝



◎次週 2023年1月1日(日)は、礼拝はお休みいたします。

2023年1月8日(日) 新年礼拝(降誕節第3主日礼拝)

招きの詞 コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

聖書 マタイによる福音書 2章13-15節

メッセージ 「ただちにエジプトへ」水谷憲牧師

賛美歌 21-268番(©出版局)、21-278番(©改訂委)、21-255番(©JASRAC)

礼拝はインターネットで中継いたします。

◎お知らせ

- ・昨日、日本コイノニア福祉会の4施設(久宝まぶねこども園、旭丘まぶね保育園、大阪好意の庭、第二好意の庭)から、90食のお弁当を作って、釜ヶ崎・いこい食堂にお届けさせて頂きました。ご協力くださった皆様どうもありがとうございました。お米等の献品もどうもありがとうございました。
- ・今年度の「クリスマス献金」を集めています(年内いっぱい)。集められた献金は、教会のクリスマス経費を差し引いた後、昨年度に引き続き「関西学院大学神学部後援会」「日本基督教団部落解放センター」「一般社団法人・神戸国際支援機構」「生活困窮者支援(含・釜ヶ崎いこい食堂おにぎり支援)」の4団体に献金いたします。それぞれの団体の働きを覚えてお祈りください。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行が続き、大阪府の新型コロナ警戒信号は「黄色」になっています。ご自身の感染予防のためにも、他人に感染させないためにも、会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。中継録画のメッセージ部分のみをカットした動画を、YouTubeでご覧いただくことも可能です。

《出典》3-5頁:「クリスマスのリタジー」(以下を参照して改変)

Heather Hill 2012. "Blue Christmas Service: When Christmas Hurts"

(<https://youngclergywomen.org/blue-christmas-service-when-christmas-hurts/>)

中村佐知 2016. "(翻訳) ブルークリスマスのリタジー" 「ミルトスの木かげで」(<http://rhythmsofgrace.blog.jp/archives/14789699.html>)

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
2023年 1/1		(1/1の礼拝は、休止いたします)
1/8	水谷牧師	新年礼拝・ユウカリスト・教会を考える会
1/15	牛田牧師	聖書を読む会?
1/22	岡嶋伝道師	誕生者祝福式?・おにぎり支援

